

平成28年度全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査結果について

平成28年10月1日

小城市立砥川小学校

全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析することによって教育の改善を図るという目的で、4月19日（火）に文部科学省による『全国学力・学習状況調査（国語A・B、算数A・B、意識調査）』を実施しました。実施対象は、小学校では6年生です。また、同日『佐賀県学習状況調査』が行われました。この佐賀県学習状況調査では、5年生の国語・算数・意識調査を実施いたしました。以下、その趣旨を全国学力状況調査を基に紹介します。

また、本校では、その結果を踏まえ、今後の授業や教育活動の改善に生かしていきたいと思えます。

尚、本調査の結果はあくまでも児童の学力の一部を表したものに過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指してまいります。

■ 調査の趣旨（文部科学省より）

- 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の視点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげる。

■ 調査の内容

（1） 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A〕（各20分）	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B〕（各40分）
・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい 知識・技能 など	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

*今年度は、昨年度行われた理科の調査は行われていません。

（2） 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査（20分程度）
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 （例）国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、読書時間、勉強時間の状況 など

■ 学習状況調査と意識調査の結果の概要

(1) 平成28年度全国学力学習状況調査の状況（対県平均） 対象 6年生

区分	国語A	国語B	算数A	算数B
佐賀県比	大きく下回る	大きく下回る	大きく上回る	大きく上回る

【国語に関して（「どちらかと言えば当てはまる」を含む）】

- ・ 「国語の勉強が好き」と答えた児童は、佐賀県を大きく下回っている。
- ・ 「授業の内容がよく分かる」と答えた児童は、佐賀県をやや下回っている。

【算数に関して（「どちらかと言えば当てはまる」を含む）】

- ・ 「算数の勉強が好き」と答えた児童は、佐賀県を大きく下回っている。
- ・ 「算数の授業の内容がよく分かる」と答えた児童は、佐賀県をやや上回っている。

(2) 平成28年度佐賀県学習状況調査の状況（対県平均） 対象 5年生

区分	国語	算数
5年	ほぼ同じ	おおきく上回る

【国語に関して（「どちらかと言えば当てはまる」を含む）】

- ・ 「国語の勉強が好き」と答えた児童は、佐賀県を大きく上回っている。
- ・ 「授業の内容がよく分かる」と答えた児童は、佐賀県とほぼ変わらない。

【算数に関して（「どちらかと言えば当てはまる」を含む）】

- ・ 「算数の勉強が好き」と答えた児童は、佐賀県を大きく上回っている。
- ・ 「算数の授業の内容がよく分かる」と答えた児童は、佐賀県を大きく上回っている。

*尚、詳しくは砥川小学校のホームページをご覧ください。

A(知識)テスト結果

全体の概要

本校のA問題では、漢字の読み書き、話す・聞く、読む観点でおおむね達成しているが、漢字の読み書き、読む観点では県の正答率をやや下回っている。要努力の問題は、15問中7問あった。書き手に対してよりよくなるように助言したり、目的や意図に応じて書く事柄を整理したりする問題や、ローマ字表記が難しかったようである。





B(活用)テストの結果

全体の概要

本校のB問題で、おおむね達成したのは、10問中3問で、県全体の結果よりも大きく下回っている。特に、文章と図を関連づけて読み取り、条件を満たして自分の考えをまとめることが難しかったようで、無回答率も高かった。

分析結果・自校の課題	
話すこと・聞くこと	<p>○目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合う問題においては、県の正答率をやや上回っており、十分達成の域にある。</p> <p>●インタビューメモがどのように工夫されているかを問う問題では、県の正答率を大きく下回る結果となり、要努力の域にある。</p> <p>●スーパーマーケットの店長に質問する場面で、インタビューメモを活用しながら質問内容を記述することが求められており、要努力の域にある。</p>
書くこと	<p>●3つの条件を満たして自分の考えを書くことについては、非常に苦手であり、県の正答率を大きく下回り、要努力の域にある。</p> <p>●書き手へ助言したり書く事柄を整理したりすることが苦手で、よりよくするための工夫が見出せていない。</p> <p>●取材メモや報告文を見て、そこから課題を見つけ出したり、解決方法を考えたりすることが見出せていない。正答率が低く、要努力の域にある。</p>
読むこと	<p>○パンフレット（公園の地図や広場の説明が書かれてある）に書かれてある内容や将来になりたい職業についての資料を的確に読み取ることは、普段の日常生活と結びついている点が多く、正答率も高くなっている。</p> <p>●文章量が多いと、その内容の読み取りに根気よく取り組むことができていない。特に、自分の考えとその根拠となる言葉が結びついていない。</p> <p>●「書くこと」の観点と同じで、よりよくするための工夫やもっと詳しく知るための方法が読み取れていない。</p>
言語事項	<p>○漢字の読みについては、おおむね達成している。また、無回答がなかった。</p> <p>○文字の大きさや行の中心を意識して書くことへの意識が高く、おおむね達成の域にある。</p> <p>●漢字の書きとりは、要努力の域にある。また、無回答率も高かった。</p> <p>●ローマ字については、読み・書きともに要努力の域にある。特に、書く方が苦手であり、無回答率も高い。</p>

○・・・成果
●・・・課題

改善に向けた具体的取り組み
<p>☆日常の学校生活の中から、自分達の必要なことをテーマに話し合う必要性を感じさせる。</p> <p>☆朝のスピーチ活動の工夫 [例：条件付きスピーチ・テーマ別スピーチなど]</p> <p>☆話し合い活動時に、メモを取る活動を取り入れ、どのようなことをメモに取ればよいか確認する。</p>  
<p>☆文章と図やグラフなどを関係づけて、自分の考えをまとめることが重要となる。そのために、図やグラフなどが添えられた文章を提示し、それらを関係づけて読んだり、自分の考えを書いたりする指導を意図的に取り入れていく。</p> <p>* 2学期から取り組むこと！！</p> <p>★条件付きの日記や作文に取り組む。 * 理由・根拠を明らかにして書く。 * 経験・体験を取り入れて書く。 * オリジナル新聞の記事を書く。 など</p> 
<p>☆☆どの学習活動でも長文を読み取る際には、文中に自分なりに大事だと思う文章や言葉には、<u>サイドライン</u>を引いたり、<u>印をつける</u>などの読み取る技を身につけさせる。</p> <p>★音読と読書のすすめ（自分が感心がある新聞記事など）</p> <p>☆自分が必要な情報は、どんな資料・書籍から得ることができるか、国語科だけではなく、他教科・領域での学習経験を積ませる。</p> 
<p>★漢字学習の工夫 [例：同じ部首をもつ漢字集め・同じ読み方の漢字集め]</p> <p>★ノートを丁寧に書く指導。（正しい字の知識活用）</p> <p>★「ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語」などの言葉の学習に加え、短文作りに取り組む。</p> <p>☆授業の始めに、漢字やローマ字の5問テストを行う。</p> <p>☆パソコンを使用するとき、キーボードでローマ字入力をさせる。</p> <p>どの学習活動でも、国語辞典で語句の意味を調べる習慣を身につけてい</p>

☆・・・学校で取り組むこと
★・・・家庭で取り組んでほしい



A(知識)テストの結果




全体の概要

基本的な計算や図形、数量関係についての知識・理解や技能は県平均を大きく上回り、基礎・基本の内容が定着しているといえる。16問中間が13問が県の正答率を上回っている。下学年の内容の計算ミスや直方体の性質、表から読み取ることが不十分な児童が目立った。



B(活用)テストの結果

全体の概要

「活用力」の問題でも県の正答率を大きく上回っていた。13問中2問が県平均を下回っている。文章をよく読んで答える数学的な考え方を問う課題をやや苦手としている。

分析結果・自校の課題	
数量や図形の知識・理解	<p>○三角形の底辺と高さの関係や三角定規については理解できていた。</p> <p>○小数や分数の数のしくみや大きさについては理解できていた。</p> <p>○数の大小や不等号については理解していた。</p> <p>●直方体の面と面の関係について理解できていない。</p> <p>●小数の割り算の検算の誤答がやや多かった。</p> <p>●表やグラフに表されている事柄を読み取ることができていない。</p> <p>●正方形に内接する円の半径について理解できていない。</p> 
数量や図形についての技能	<p>○小数や分数の計算はよくできていた。朝の花丸タイムや間違い直しの徹底した指導をすることで身につけてきたのではないだろうか。</p> <p>●基礎基本である繰り下がりのある減法の計算の誤答があった。確実にできてほしい問題である。</p> 
数学的な考え方	<p>○全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味について理解している。</p> <p>○示された除法の式並べてできた形と関連づけ、角の大きさを基に式の意味を言葉で説明することはできていた。</p> <p>●2つの表を基に表から読み取ることができないことを事柄を特定することができていない。</p> 

○・・・成果
●・・・課題

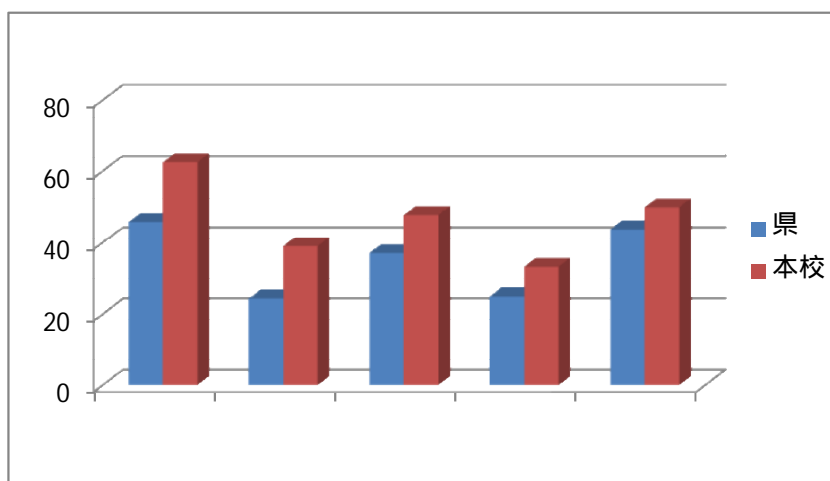
改善に向けた具体的取り組み
<p>☆理解していない単元の復習。特に、理解していない内容については図等を利用して明確化し、説明ができるように支援・指導を強化する。</p> <p>☆花丸タイムとすくすくタイムの有効活用をしていく。</p> <p>* 前学年までの復習</p> <p>★日々の家庭学習の中に、ちょっとしたチャレンジ（発展）問題をおりませてください。</p> <p>* ドリルまたはプリントを毎日自分の力でする。</p> <p>* 間違えたところのやり直しを必ずし、復習する。</p> <p>* チャレンジ問題に取り組む。</p> 
<p>☆☆今までの宿題や花丸タイムなどを活用して、繰り返し練習問題に取り組ませる。また、誤答ややり方が分からない時は、すぐに補習をし、課題解決させる従来の方法を継続していく。</p> <p>* 単位量に関する問題についての補充</p> <p>* 問題場面に応じて、2つの量のどちらかを単位量とするかについて線分図を使い、問題を的確に理解し判断できるように指導の仕方を考えていく。</p> <p>* 「花丸タイム」の中で、全学年までの復習を随時行う。</p> 
<p>☆日頃の授業の指導を通して取り組むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条件は何か、問うているのは何かなどに線を引かせたりし、問題の理解を図る。自力解決では半具体物や図や数直線などを利用させたりして既習事項をつかい何とか自分で考える指導を重視する。特に基準量、比較量、割合の関係を捉える問題では、数直線を書かせ基準値の1を意識させるよう指導する。 ・自力解決の後、図や言葉、式等を利用し、説明を相手に伝えたり、ノートに書かせたりする取り組み（交流活動Ⅰ・ペア・3人組）を充実していく。 <p>* 問題を解くときは、わからない・無解答ではなく、何かを書くことの大切さ、何かを発言する大切さを支援する。</p>

☆・・・学校で取り組むこと
★・・・家庭で取り組んでほしいこと

生活習慣に関する「質問紙(意識)調査」から (6年生)

【良かった項目】

学校の決まりを守っている	*「当てはまる」と答えた児童の割合
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	
「総合的な学習の時間」の勉強は好きだ	
授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う	
授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている	

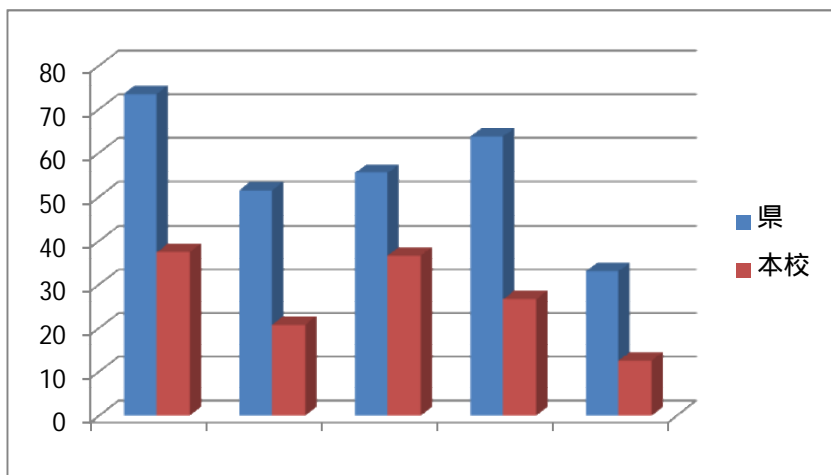


***分析と取り組み**

- ・与えられた宿題や課題に対してはまじめに取り組むことが出来ている。今後は、自主的に決まったこと以上の学習をしたり、わからない問題をじっくり考えたりする習慣をつけさせたい。そのために、ドリル的な学習課題だけでなく、自主学習の取り組みを紹介することで、能動的に学習に取り組む児童を増やしていく。
- ・「総合的な学習の時間」に取り組んだ調べ学習や、その発表については自信を持ったようだ。

【課題のある項目】

人の役に立つ人間になりたいと思う
学校に行くのは楽しいと思う
友だちと話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことが出来る
国語の勉強は大切だ
授業で、学校の友達との話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思う



***分析と取り組み**




- ・「当てはまる」「そう思う」など、選択肢の一番最初に丸をつけることが少ないように思われる。謙虚なのか、自信がないのか。
- ・勉強の大切さや、役に立つと思うかなどの質問には、国語以外の教科でも数値が低かった。
- ・4月の調査だったが、6年生になって下級生のお世話や、リーダーとしての役割を持つようになって、少し自信を持ってきているのではないだろうか。
- ・将来への希望を持たせ、自己肯定感をあげ、何事にも意欲的に取り組ませたい。

全体の概要

全体としては、どの項目においても県平均とほぼ一致している。観点別に見ると、「知識・理解・技能」において県正答率対し、本校は正答率はやや上回っている。「読む」において、県正答率に対し本校正答率は大きく下回っている。繰り返し練習するなど、学習したことを身につけることはできている児童が多いが、今まで学習したことを使い新しいことを読み取る問題に対しては、苦手な傾向にあると考える。国語全体の到達度分布は、県平均に対し「要努力」はほぼ同じで、「おおむね達成」は大きく上回るという結果が出ている。「十分達成」している児童の正答率が県平均より若干低いので、特別に高い学力が身につけている児童はあまり多くなく、「おおむね達成」の児童が中心のクラスだと考えられる。

・・成果
・・課題



・・・学校で取り組むこと
・・・家庭で取り組んでほしいこと

	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
話すこと・聞くこと	<p>聞き手の反応を見ながら話す力は、できている。</p> <p>相手や目的に応じて、理由を挙げながら筋道を立てて話すことは身につけてきている。</p> <p>聞いた事柄を基に、分からない点や確かめたい点を質問することは苦手としている。話し手の意図をとらえながら聞いたり、聞き手の様子をうかがいながら話したりすることも苦手としている。</p>	<p>やまびこタイム(音読)やスピーチタイムに、引き続き継続して取り組んでいく。</p> <p>日ごろのスピーチ活動、話し合い活動の場で、相手の意図をとらえながら聞くことに取り組ませる。</p> <p>大事なことをメモし、要約する練習問題に取り組む。</p> <p>引き続き、毎日の音読を聞いていただくようお願いする。</p> <p>「読み聞かせ」を行ったときには、作者の意図や思いなどを感想を話すようお願いする。</p>
書くこと	<p>間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすることはできている。</p> <p>目的に応じて書いているかの表現を検討する問題はできている。</p> <p>目的や必要に応じて、表を参考にして書くことは苦手としている。</p> <p>記述式の問題を苦手としている児童がいる。</p>	<p>常体と敬体の違いに意識をさせ、効果について考えさせたり、スキルを身につけさせたりする。</p> <p>自分の思いを表現するために、特徴のある表を使って考えさせるような問題に取り組ませる。</p> <p>毎日、条件を与えた作文の宿題を出し、文章を書くことへの抵抗感をなくす。</p> 
読むこと	<p>詩の描写を捉えて、想像力を働かせながら読むことを苦手としている。</p> <p>場面の様子がよくわかるように、工夫して音読することを苦手としている。</p> 	<p>グループで詩の読解に取り組ませる。意味を考えて工夫した音読に取り組ませる。</p> <p>内容の中心を捉えたり、段落相互の関係を考えたりする活動を多く取り入れる。</p> <p>「書くこと」と連動させ、説明文の書き方・パターンを学習し、説明文を実際に書かせ、説明文の掴み方を体得させる。</p> <p>読書量を増やし、感想を持たせる。</p>
言語事項	<p>漢字の読みは、3問中2問は全員できていた。書き取りは県平均を上回っていた。</p> <p>慣用句の問題については、よく出来ている。</p> <p>ローマ字(特に濁音や拗音)の読み書きは間違いがある。</p> 	<p>漢字はよりたくさん問題に取り組み、いろいろな熟語を繰り返して書くことで、応用力をつける。</p> <p>辞書を身近に置き、分からない言葉をすぐに調べることができるようにする。</p> <p>ローマ字については、環境等で目に触れる回数を増やしたり、意図的に身近なものをローマ字で書かせたりするなど、ローマ字に触れる機会を増やしたい。</p> <p>言語事項に関する宿題を出し、確実に取り組ませる。</p>

全体の概要

観点別に見ても内容・領域別に見ても、どの項目も平均より上回っている。また算数全体の到達度分布は県に対して本校は要努力の人数がやや少なく、反対に十分達成の人数は多い。そのことから、クラス全体を見たときにやや上位の子どもが多いことが読み取られる。ただし、要努力の中には、3分の1しか正答していない児童もおり、配慮が必要だと考えられる。また、到達度と比較してみても、すべて概ね達成している。特に、観点別では技能が、内容・領域別には数量関係が十分達成まで到達していることがわかる。また、無回答率もとても低く評価できる点である。

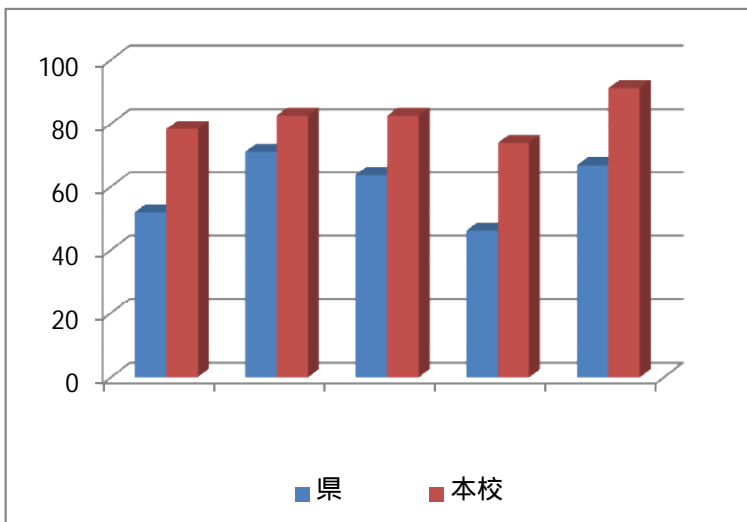
- ・・・成果
- ・・・課題

	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
数量や図形の知識・理解	<p>○殆どの問題で、県平均の正答率を上回っている。これは、1時間1時間の授業を大切に、問題解決学習型の授業を行ってきた成果といえる。また、学習のまとめやポイントの整理を繰り返してきたことも成果があった。</p> <p>●正答率が県平均より一番低かったのは展開図をもとに垂直な辺を見つける問題だった。展開図を見て、直方体をイメージすることが難しい。実際に、展開図を書いて直方体を作るなど立体に関する感覚を養う必要がある。</p> <p>●同じく正答率が低かったのが、位置を表す問題だった。直方体の頂点をどこを規準にしてどのように表すのか、図からの読み取りができていない。平行四辺形の頂点を決める問題で、方眼のマス目を使って平行な直線をひくための頂点の位置関係をつかむ学習を再度行う必要がある。</p>	<p>☆交流活動では、算数用語を使う場を設定する。また、新しい用語は、掲示していつでも使えるようにする。</p> <p>☆図や表の中に印を入れて考えたり、指で指しながら考えたりすることの大切さを伝え習慣化する。</p> <p>☆単位の関係などは実際に目で確かめるなどしながら数量的感覚を養う。</p>
数量や図形についての技能	<p>○殆どの問題で、県平均の正答率を上回っている。これは、家庭学習や、花丸タイムなどで計算技能のスキルアップを続けてきた成果と言える。</p> <p>●正答率が低い問題は、180度を超える角度の読み取りである。分度器だけに注目し、単純にその角度だけを読み取っている。注意深く、図を見たり、題意を読み取れていないことが伺える。</p> <p>●また、表の読み取り問題も正答率が低く、どこが何を表している数字なのかが理解できていない。複数の情報の中から適切に読み取る学習を再度行う必要がある。</p> 	<p>☆計算は繰り返すことで定着をはかることができるので、今後も家庭学習や、朝の時間を活用しながら、確実な力となるまで指導していく。また、ある期間集中して取り組んだ後、時間をおいて取り組ませることもしていく。</p> <p>☆繰り下がりのひき算や、かけ算など既習事項のつまずきにも目を向け、指導していく。</p> 
数学的な考え方	<p>○殆どの問題で、県平均の正答率を上回っている。これは、交流活動を繰り返す中で自分の考えを持ち、それを他者に伝えることが定着してきた成果と言える。</p> <p>●県平均は超えてはいるが、文章が多い問題になると、正答率が低い傾向にある。たくさんある情報の中から必要な情報だけを取り出し処理することができていない。</p>	<p>☆算数に限らず他教科でも、長文や情報過多の中から必要な部分を取り出すことなども含め、じっくり丁寧に読み取って考えることを習慣化させる。</p> <p>☆今後も交流活動に積極的に取り組んでいく。自分の考えだけでなく、友達の考えを説明したり、友だちに問題を出すなどの活動にも取り組む。</p> <p>☆上位の児童には、活用を意識した問題を提示し、長文や情報過多の問題にも慣れさせる。</p>

生活習慣に関する「質問紙(意識)調査」から (5年生)

【数値が特に高かった項目】

学校に行くのは楽しい。	* 「そう思う」と答えた児童の割合
将来の夢や目標を持っている。	* 「当てはまる」と答えた児童の割合
自分で計画を立てて勉強している。	* 「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合
学校の授業の予習をしている。	* 「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合
ノートに学習の目標とまとめを書いている。	* 「当てはまる」と答えた児童の割合

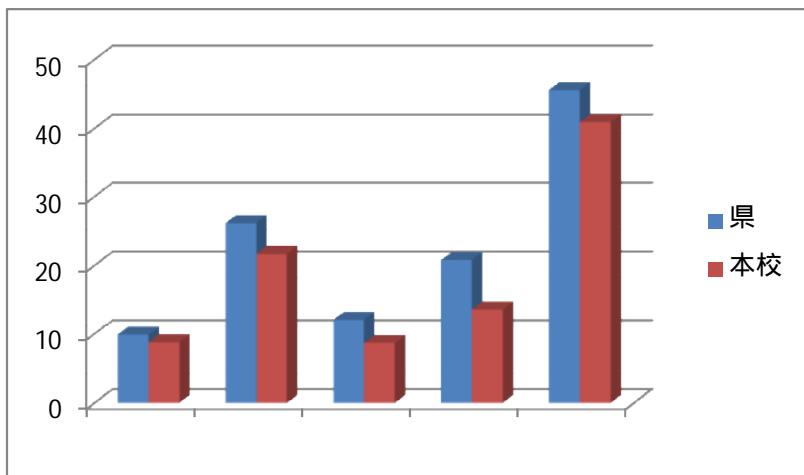


*** 分析と取り組み**

- ・ 「QU」や毎月の「心のアンケート」、職員間の情報交換等で児童理解に努め、誰もが「安心」できる学校、学級作りに全職員で取り組んでいるため、学校が楽しいと感じている児童が増えていると思われる。()
- ・ 将来の夢や目標を持ち、学習に対して能動的に取り組んでいる児童が増えていると思われる。()
- ・ 算数科を中心に、全職員でノート記述の共通理解を図り取り組んできたため、他の教科においてもめあてやまとめ等をノートに書く習慣が定着してきていると思われる。()

【数値が特に低かった項目】

休日にどれくらい勉強をしますか。	* 「4時間以上」「3時間以上、4時間より少ない」と答えた児童の割合
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	* 「あてはまる」と答えた児童の割合
普段(月曜日から金曜日)、何時頃寝ますか。	* 「午前9時より前」と答えた児童の割合
小学校の授業以外に、普段(月曜から金曜)1日あたりどれくらいの時間、読書をしていますか。	* 「2時間以上」「1時間以上、2時間より少ない」と答えた児童の割合
今住んでいる地域の行事に参加している。	* 「している」と答えた児童の割合



*** 分析と取り組み**

- ・ 「総合的な学習の時間」の発表の場を設け、「課題」「情報収集・整理」等自発的な学習の態度を育成していく。()
- ・ 「早寝・早起き」の良さを伝え、児童や保護者に常に呼びかけていく。()
- ・ 「家読」の良さを伝え、保護者に啓蒙していくことで、家庭での読書の習慣を身につけさせていきたい。()
- ・ 学校からも地域の行事への参加を呼びかけていく。長期休業中の行事は、学期終わりの地区別の集会時に確認させ参加を促す。()